

ディボーション質問表



23日(月) ナホム書 1:1~15節 神のさばきの恐怖

ナホムはハバクク、ゼパニヤと同時代 BC686~609年に活躍しました。「主はねたみ、復讐する神」という冒頭が特徴的で歴史の中に現される神様の力と聖さを伝えました。二ネベの住民は、ヨナの宣教により一時的に悔い改め、差し迫った危機からは免れることが出来た。しかし、彼らはすぐにヨナの宣教を忘れ、高慢になって、神に挑戦するようになりました(Ⅱ列王 18:25、30、35、19:10~13)。

1. 1~11節を読んで、わたしたちの神様はどのようなお方でしょうか。また、わたしたちは神様に対してどのような関係を持つべきでしょうか。日ごろの神様との関係を吟味してみましょう。
2. 12~15節に現れている神様の恵みは何でしょうか？

24日(火) ナホム書 2:1~13節 二ネベの滅亡

1. 二ネベ(アッシリヤ)の最後をあたかも目撃者のように預言します。アッシリヤによって裁かれたユダの回復と対象に3節から二ネベに対する裁きの言葉、彼らの罪は何でしょうか(10~12節)? → 高慢になってしまい、相手の気持ちをどうも思わない言動をしていないでしょうか？
2. たとえこの世で成功し強い存在であったとしてもだれが裁きますか(13節)?

25日(水) ナホム書 3:1~19節 二ネベに対する挽歌

1. 二ネベの町の罪は何でしょうか(1~7節)?
2. ノ・アモン(8節)は BC2100年頃から存在していた大きな都市でした。エジプト観光で有名なカルナックやルクソール神殿という壮大な遺跡が残っているほど栄えた町でしたが、BC663年に陥落しました。人が作る都の最後はどのようなものですか(8~19節)?

26日(木) ハバクク書 1:1~2:4節 預言者と神との問答

この書は3つの部分に分かれます。1. 神さまと預言者の対話。2. 悪人への宣告。3. ハバククの祈り。ハバククという名前はユダヤでは珍しくいつの時代に書かれたか定かではありません(およそBC600年頃)。ハバククはアッシリヤの二ネベを陥落させたBC612年前後に預言したと推測される。

1. ハバククのとりなしの叫びはどのようなものでしょうか(1~4節)? 律法はどうなりますか(4節)? ハバククの叫びに対する神様の答えは何でしょう(5~11節)。なぜそうようになるのですか(11節)? → 律法は罪を示すがそれに打ち勝つことができず、ただ神様の恵みだけであることを知っているのでしょうか？
2. ハバククは5~11節の神様の答えに対してさらに問いかけます。どのようにですか(12~17節)? → 聖く、愛の神様がなぜ人のひどい行動をゆるされるのか、それを神様の民の裁きに利用するのかわからないことがあります。わたしはこのことをどのように受け止めますか？
3. ハバククの疑問への神様の答えは何でしょうか(2:4節)?

27日(金) ハバクク書 2:5~20節 神を恐れぬ者に対する審判の宣告

1. 高ぶりとはどのようなものですか? どのような結果を生みますか(5~8節)?
2. 不正、むさぼりの最後はどのようなものですか(9~17節)?
3. 偶像崇拜がどれほど空しいものだと語っていますか(18~20節)?

28日(土) ハバクク書 3:1~19節 預言者の祈り

1. 罪深い社会のむごい状況を何とかしてほしい、と神様に祈りましたが、自分の求めるような答えではなく恐ろしい神様の裁きが宣告されました。それも、人が人を裁くかたちです。そんな心が混乱するような状況にあってハバククはどのような歌をうたいましたか？